

静岡県レッドデータブックの改訂（トンボ）

福井順治

2019年3月、静岡県レッドデータブック（動物編）が改訂され、県のホームページで公表されました。ここでは、この動物編の昆虫分野の中から、前回のチョウに続いてトンボについて解説したいと思います。

静岡県ではこれまでに記録されたトンボは全部で99種です。しかし、1種として扱っているアサヒナカワトンボのうち、伊豆半島～富士山東麓に生息する<伊豆個体群>は、関東以西の本州、四国、九州に広く分布しているアサヒナカワトンボとは異なる分類群と考えられていますので、これが別種として認められそうですと静岡県に記録されるトンボはちょうど100種になります。この中には台風などで運ばれてきたと思われるヒメギンヤンマ、オオギンヤンマ、スナアカネ、ハネビロトンボなどの飛来種（迷トンボ）が10種ほど含まれています。西南日本ではベニトンボ、アオビタイトンボなどのように、近年の温暖化などの影響で分布を拡大している南方系の種がいますが、本県に定着するようになった種はまだ台湾ウチワヤンマだけです。

<レッドリスト選定の手順>

今回のトンボ目のレッドリストの種選定にあたっては、静岡県自然環境保護調査委員会の昆虫部会で検討の上で次のような手順で行いました。

1. 分布単位の扱い方には、市町村、メッシュコード、記録地の地名などがありますが、このうちのメッシュコード（7桁＝二次メッシュの1/4）を採用しました。これはおよそ5km四方を1つの分布単位として記録の有無を調べることにになります。前回の選定の時には市町村を単位として記録の有無を調べましたが、市町村はその後の広域合併などによって、分布単位としては扱いにくくなったためにメッシュコードに変更しました。

2. 最初に、種ごとに既存の文献記録など（主として静岡昆虫同好会の会報、駿河の昆虫）及び標本記録など（主としてふじのくに地球環境史ミュージアムの所蔵標本）をメッシュコードご

とに集計しました。

3. これに、2009～2017年に実施した昆虫部会員による、レッドデータブック作成のための現況調査で得られた記録を追加しました。

4. 以上の全記録を既知記録地としてメッシュに変換し、このうちの2005年以降の記録を現存生息記録地のメッシュとして扱い、現存生息記録地メッシュ数/既知記録地全メッシュ数を計算して、記録地の減少割合を求めました。

5. 最後に、現存生息記録地数や生態的な特徴（生息地の環境変化・偶産記録の可能性など）を加味してランクの補正を行いました。

このような手順で作成された改訂レッドリストは次のようになりました。

<改訂レッドリスト> 太字はランクの変更があった種
分数の数字は現存生息記録地メッシュ数/既知記録地全メッシュ数
絶滅危惧 I A類 (CR) : 記録地の減少割合 80%以上、または現存生息記録地メッシュ数 0～2

コバネアオイトトンボ	3 / 9	グンバイトンボ	0 / 4
ヒスマイトトンボ	1 / 2	ベニイトトンボ	2 / 6
オオイトトンボ	1 / 10	キヒロヤマトンボ	1 / 3
エゾトンボ ↑	0 / 2	ベッコウトンボ	2 / 8
キトンボ	1 / 8	オオキトンボ	0 / 15
			以上 10 種

絶滅危惧 I B類 (EN) : 記録地の減少割合 60%～80%、または現存生息記録地メッシュ数 3～4

ニホンカワトンボ	2 / 5	キヒロサナエ ↑	4 / 14
フタスジサナエ ↑	1 / 13	トラフトンボ ↑	4 / 16
ハッチョウトンボ	1 / 9		
			以上 5 種

絶滅危惧 II 類 (VU) : 記録地の減少割合 40%～60%、または現存生息記録地メッシュ数 5～6

モートンイトトンボ	4 / 15	アオヤンマ	5 / 16
ホソサナエ ↑	1 / 9	コサナエ ↑	4 / 11
タバサナエ	4 / 11	ハネビロエソトンボ	5 / 13
			以上 6 種

準絶滅危惧 (NT) : 記録地の減少割合 20%～40%、または現存生息記録地メッシュ数 7～10

アオハダトンボ	8 / 11	オツネントンボ 新	4 / 37
ホソミオツネントンボ 新	5 / 74	ネアカヨシヤンマ	9 / 17
カトリヤンマ 新	8 / 57	ヨツボシトンボ	7 / 19
マイコアカネ 新	9 / 33		以上 7 種

要注目種・現状不明 (N-I) : 生息記録地としての認定が困難な環境での1例しか記録がない。

ルリイトトンボ	0 / 1	オオトラフトンボ	0 / 1
マダラニワトンボ	0 / 1		以上 3 種

矢印↑を付記した種のうち、エゾトンボは新たに生息記録が見つかったため要注目種 (N-III) からのランクアップを、その他はランクが1つ上がった種です。また、新と付記した種は新しくレッドリストに選定された種です。

2004年版と今回の改訂を準絶滅危惧までのカテゴリーについて比較しますと、絶滅危惧ⅠA類(CR)：9種→10種、絶滅危惧ⅠB類(EN)：2種→5種、絶滅危惧Ⅱ類(VU)：7種→6種、準絶滅危惧(NT)：5種→7種となり、トータルでは23種→28種となりました。10種のランクが上がっていますが、ランクが下がった種はなく、文字通り絶滅が危惧されている状況となっています。なお、上記のカテゴリーに加えて要注目種・現状不明(N-I)3種を選定していますので、合計で31種となっています。

トンボは身近にいてなじみのある昆虫ですが、近年は生息環境の消失や農薬などの影響で、各地で多くの種の個体数の減少が報告されています。この傾向は前回のレッドデータブックの作製のころから現れ始めていましたが、最近の10年ほどは特に顕著になっています。現在は選定されていない種についても生息状況を注意していきたいと思っています。

<絶滅危惧ⅠA類のいくつかの種の紹介>

グンバイトンボ：平地～低山地の緩い河川に生息する種で、浜松市と磐田市の数ヶ所に生息地がありましたが、2000年に最後に現存生息地がなくなりました。

ヒヌマイトトンボ：河口の汽水域に生息する小さなイトトンボで、浜松市の1ヶ所だけに生息していますが、近年はほとんど見られなくなっています。

ベッコウトンボ：平地の水生植物が豊富な池沼に生息しますが、生息記録地があった本州の東北地方以南の30ほどの都府県のうち、現存する生息地が残っているのは本県を含んだ5県だけになっています。県内では浜松市と磐田市に生息がしていましたが、浜松市では2014年に確認できなくなりました。磐田市でも個体数の減少が続いています。

キトンボ：平地～丘陵地にある開放的なやや大きめの池に生息し、県内では東・中・西部に点々と記録地がありますが、東部と西部の記録は古いもので、島田市と静岡市だけに生息地が残っていました。しかし、静岡市で2ヶ所あった生息地も1ヶ所は1990年代、他の1ヶ所も2000年には見られなくなり、最後の島田市の生息地でも姿を消しました。



グンバイトンボ♂ 磐田市 1993. 6. 27



ヒヌマイトトンボ♂ 浜松市 2019. 6. 17



ベッコウトンボ♂ 磐田市 2008. 4. 27



キトンボ♂ 島田市 2008. 11. 22